

資料 4

オリンピック・パラリンピック
教育に関する有識者会議
(第4回)

パラリンピック教育プログラム

パラリンピアンへの取り組みについて

日本パラリンピアンズ協会 (PAJ) とは

- ・ パラリンピックに日本代表として出場した経験のある選手有志による選手
- ・ 2003年に発足、2010年2月12日に法人格を取得、一般社団法人化。

<目的>

- ・ パラリンピアンズ同士が繋がり、
- ・ 国内外のスポーツ団体、アスリートたちと連携しながら、
- ・ パラリンピアンとして社会に貢献する。

<PAJは…>

- ・ 障害の有無にかかわらず、誰もがスポーツを楽しめる社会の実現に寄与する。
- ・ パラリンピックについて正確な情報を共有し、スポーツの素晴らしさを伝える。
- ・ パラリンピックを含むスポーツへの支援、共感、協力の輪が広がることを願う、
- ・ 選手が安心して競技に打ち込める環境を整えるため、広く社会に働きかける。

<主な活動>

- ・メルマガによる会員への情報提供
- ・パラリンピアン向けの勉強会・情報交換会の開催
- ・「パラリンピック選手の競技環境実態アンケート調査」(2008年、2012年)
- ・講演会／体験イベント等への会員(パラリンピアン)講師の派遣

パラ知ル!

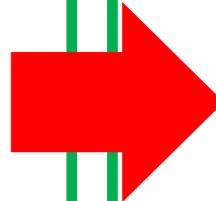
パラリンピックをもっと知ろう



Copyright (C) Paralympians Association of Japan

パラリンピアン自身が学ぶ!

- 選手同士の情報交換
- 勉強会の実施
- 講演のための資料作成
- 誰もが楽しめる体験プログラムの構築



パラリンピアンが伝える!

- 講演会、イベント等への派遣
- ノベルティグッズ制作
- メディアへの出演、寄稿
- スポーツ関連会議等への出席
- 2020年東京パラリンピックへの積極的関与

【講演内容】

「選手と直接会い、話を聞く体験」

- ・選手個人の体験をベースに…

出身競技の特徴、アスリートとしての道のり、
パラリンピックでの経験談、競技との出会い、
障害受容の過程での心の葛藤、子ども時代の体験 など

- ・パラリンピックの歴史やパラリンピックの価値について触れる…

「体験型～道具に触れる・選手と共に体を動かす」

- ・スポーツ用義足を見る、ゴールボールに触る、チェアスキーを見る など
- ・車椅子バスケットボールを体験する、ボッチャ体験など

「映像や写真を見る」

- ・競技の映像を選手の解説付きで見せる
- ・競技中の写真を見せる
- ・IPCがyoutubeで公開している映像 例) ‘All about ability’

【課題1】講師の数が足りない

- 講師が特定のパラリンピアンに集中する傾向がある。
 - ・講演をする時間的なゆとりがある人 → 職場の理解が得られる人
 - ・講演の質・内容が一定レベル以上であること
 - ・交通費や謝金の支払い → 息の長い活動のためには必要
- 特定の競技出身者に人気が集まりやすい。見た目の「分かりやすさ」
例. 車椅子バスケット、義足の陸上選手など
- 現役選手の場合、競技活動しながら講演活動をする限界がある
 - ・代表を引退したパラリンピアンたちが担う傾向が強い

【課題2】道具の準備と運営スタッフの確保～体験型の場合

- スポーツ用の車いすや体験義足の調達。
 - ・運搬方法、保管スペース、破損や修理の責任
- 運営サポートスタッフの確保
 - ・車いすの操作補助、体験義足の装着補助、ボール出しなど…
 - ・体験スペースの事前把握も重要
- 体験会内での安全の確保 ～事故を防ぐ

【課題3】発達段階にあわせた講演内容

- 子どもの発達段階に合わせた講演内容の組み立てが難しい
 - ・教えるべき内容が幅広い。
 - ・対象となる子どもの年齢、事前学習の有無、講義時間等により、テーマ設定や適切な講師も変わってくる。

【その他の視点】

- 1校1国運動におけるパラリンピックの位置づけ
- 大学カリキュラムでパラリンピックを学ぶ場の創設。
- パラリンピックに関する学術的な研究の場
- パラリンピック選手とアンチドーピング
- 女性とスポーツ



